

仏壇店だより

くまモン尽くしの仏壇  
輪島漆器仏壇店(熊本)

仏壇をゆるキャラ尽くした」とふり返る。

しに、社長自らがゆるキャラに扮して、あらゆるマスコミに登場するのが輪島漆器仏壇店(熊本市)。

輪島漆器仏壇店は先代社長永田孝氏によって創業され、現在は二代目永田幸喜社長(49)が継ぐ。

先代孝社長は元々日産の凄腕セールスマン、仏壇業界に入ると「金箔が剥がれない仏壇」をテレビショッピングで宣伝し、熊本県民の支持を得てきた。

孝社長が亡くなったのは平成十四年のこと。幸喜社長によれば「うちの社長は百歳まで仕事をすると思っていました。が、病気に倒れ、あつという間に亡くなりました。私

当初は耳だけのくまモンであったが、頬に紅を塗り、さらにくまモンそのものとなった永田社長自身がマスコミの注目するところとなり、くまモン尽くしの仏壇・仏具が

永田社長は十二月二十四日の申請受付の日、真つ先に列び、第一番目の申請者となった。当日NHKをはじめ地元テレビ局が取材に県庁に集まったが、くまモンの耳を付けた、くまモン体型

の永田社長はNHKのディレクターの目にとまり、申請受理の様子がその日のニュースで流れる。その後は、地元テレビ、新聞さらには福岡のテレビ・新聞、そして全国ネットのニュースでも

くまモンは仏壇の扉四枚にそれぞれ五体で合計二十体、障子四枚のそれぞれ障子腰に一体ずつで合計四体、下段棚に一体、膳引きに一体の合計二十六体が伝統蒔絵技法で描かれ、さらに猫戸に

は熊本特産の辛子レンコン、上段引出には熊本由来の武将の家紋、下段引出には熊本の花「肥後六花」が蒔絵で描かれる。五具足とリンにはくまモンを象嵌、三角打敷と座布団にはくまモンの刺繍が施される。

一月二十七日には店内で「くまモンづくし仏壇」の入魂開眼法要が僧侶を導師として行われた。

マスコミに大きく取り上げられ、県内全域に輪島漆器仏壇店の名前がくまモン仏壇の名前を知られるようになったが、くまモン仏壇は一本も販売できていない。

「売れる寸前までは行くのですが、最後のところ

で普通の仏壇を選ばれるお客様が大半ですね。でも、くまモン仏壇は広く知られるようになりまし

たし、ウチもたくさん取り上げて頂き、ご来店頂

くまモンに扮せるのは、永田社長自身のキャラ

による場所が多い。扮することが出来ても、演じることは難しいのだが、永田社長はくまモン

を演じることもできる。その点が大きい。僅か二十坪ほどの仏壇

店で驚くほどの売上を上げてきた輪島漆器仏壇店。店は正直なところ決して綺麗ではないし、店舗の外観も立派とはいえない。仏壇店として美しい店舗の外観を持ち、整った展示をする仏壇店とはまた違う魅力が輪島漆器仏壇店にはある。



輪島漆器仏壇店の「くまモン尽くしの仏壇」  
永田幸喜社長が自らくまモンを演じる  
マスコミ各社が取り上げたため  
熊本県内では知らない人がいない、というほどの知名度